

コダック プロフェッショナル D-76 デベロッパ

TSC 0460

コダック プロフェッショナル D-76 デベロッパは、乳剤の感度を低下させずに、通常のコントラストで、しかも極めて優れたシャドーコントラストに仕上げる現像液です。また、種々の連続階調白黒フィルムに対して微粒子に仕上げます。シャープネス（鮮鋭度）を高めたい場合は、粒状性がわずかに増しますが、この現像液を1:1に希釈することもできます。この現像液は、濃度域と現像寛容度が広いので、比較的低いカプリーで増感現像をすることができます。コダック プロフェッショナル D-76R リプレニッシャーを用いてD-76デベロッパを適切に補充すると、現像液の処理能力が増加しますし、現像時間を延長しなくても、現像処理の均一性が保てます。

攪拌

攪拌を適切に行うことは、常に均一な結果を得るのに非常に重要です。攪拌しますと、フィルムの表面から現像による副生成物を取り除けますので、新鮮な現像液が乳剤中の露光されたハロゲン化銀に作用することができます。攪拌は現像速度、特に高濃度域に影響を与えますので、攪拌がフィルム表面全体にわたって均一であり、攪拌の程度が各フィルムまたは各バッチフィルムに対して同じであれば、常に一定品質のネガタイプを作製することができます。常にフィルムの一方向に溶液の流れが生じないように、攪拌は必ず不規則、つまりランダムに行ってください。一定方向に溶液が流れますと、その流れた方向で濃度の増加が生じ、ムラになります。

小型タンクでのロールフィルムの攪拌：小型タンク現像用の時間は、次の攪拌方法を基にしています。

1. 空のタンクを現像液で満たします。
2. タイマーをスタートさせます。暗い所（暗室またはダークバッグ）で、慎重にリール（フィルムを巻いた）を現像液に入れます。
3. タンクにふたを素早くかぶせます。フィルム表面から気泡を取り除くために、約2.5cm（1インチ）の高さから作業台にタンクの底を軽くたたきます。気泡ができますと、その部分の現像が抑制され、フィルム上に低濃度の円形ムラが生じてしまいます。

4. 現像結果にもよりますが、初期攪拌を5サイクルまで行います。コダック プロフェッショナル T-MAX フィルムの場合には、5秒間で5～7サイクル攪拌を行います。逆さにできるタンクの場合には、タンクを上下逆さに回転し、ついでもとの正しい位置に戻すという方法が1サイクルです。逆さにできないタンクでは、タンクを前後に25.4cm（10インチ）以上スライドさせる方法が1サイクルです。リールを巻くためのハンドルのあるタンクでは、攪拌と攪拌の間、毎秒1サイクルの割合でリールを前後に静かに1回半回転させます。ステップ2～4は、タンクの種類にもよりますが、約7～20秒かかるでしょう。
5. 最初の30秒間のうち残った時間はタンクを静止させます。
6. 最初の30秒が経過した後は、30秒間隔で5秒間攪拌をします。攪拌は、要求されるコントラストやタンクの種類にもよりますが、2～5サイクルにしてください。

大型タンクを使用する場合の短いロールフィルムの攪拌：大型タンクを使えば、数本の短いロールフィルム（1.5m〔5フィート〕以下）を現像処理することができます。らせん状のリールに各ロールフィルムを巻きます。ラック、バスケットまたはスピンドルにリールを装てんし、ラック、バスケットまたはスピンドルをタンク（代表的には、3.8L〔1ガロン〕または13L〔3 1/2ガロン〕タンク）の中に入れます。多くのラックは、35mmロールフィルムでは30本、または120サイズフィルムでは18本までロールが装てんできます。次の攪拌方法に従ってください。

1. タイマーをスタートさせます。ラック、バスケットまたはスピンドルを現像液の中に入れ、タンクを素早く軽くたたいてフィルムの表面から気泡を取り除きます。気泡が付いていると、現像が抑制されてフィルム上に円形の低濃度ムラが生じてしまいます。
2. ラック、バスケットまたはスピンドルを約1cm（1/2インチ）上下して、最初の15～30秒間フィルムを連続的に攪拌します。リールは、常に溶液中に保ってください。最初の1分間のうちの残った時間は、ラック、バスケットまたはスピンドルを攪拌しないでください。
3. 各1分間（最初の1分後）に1回、現像液からラック、バスケットまたはスピンドルを完全に持ち上げ、約30度傾けながら5～10秒間液切りをし、再び浸します。ラック、バスケットまたはスピンドルを傾ける角度は交互にしてください。



シートフィルムを皿現像する場合の攪拌：シートフィルムを1枚現像処理するには、タイマーをスタートし、現像液の中にフィルムをスライドさせながら入れます。フィルムが完全に浸るように、トレー（現像皿）をすぐにゆり動かします。攪拌するには、まず、トレーの左側を約1.9cm（3/4インチ）持ち上げ、静かに下げます。次いで、最も自分に近い面をすぐに上下します。次に、右側を上下し、その近い面を再び上下します。この攪拌サイクルは約8秒かかります。現像時間中は連続攪拌をします。シートフィルムを2～6枚いっしょに皿現像するには、下記の方法に従って、前浴処理をします。前浴しますと、シートフィルムが互いにくっつかなくなりますし、均一に現像ができるようになります。

1. 現像液と同じ温度の水でトレーを充滿させます。
2. 乳剤面を上にして、一度に1枚シートフィルムを水の入ったトレーに浸します。次のシートを入れる前に、各シートフィルムが水に浸っていることを確認してください。数秒ごとに一番下のフィルムを一番上に移動させるという方法で繰り返していき、これを2回行います。取り扱っているフィルムの角で、別のフィルムにスクラッチ（ひっかき傷）を付けないように注意してください。
3. 水の入ったトレーから一番下のシートフィルムを取り出し、数秒間水切りをしてから、乳剤面を上にして現像液の中に入れます。タイマーをスタートさせます。シートフィルムが現像液に浸っていることを確認し、同じような方法で、残りのシートフィルムを一度に、1枚ずつ素早く現像液に移してください。現像が完了するまで、一番下のフィルムを一番上にもっていくという方法を繰り返します。**注：**こういった攪拌方法を用いる場合には、フィルムを入れた順番に取り出して、各フィルムの現像時間を揃えることが重要です。ノッチコードが反対側に来るように、シートフィルムの最初の1枚だけを180度回転させて現像液に入れるようにすれば、他のフィルムと区別がつかます。こうしておけば、最初に入れたシートフィルムが区別できますので、溶液から取り出す最初のフィルムが分かるのです。
4. 現像の終了時に、シートフィルムを一度に1枚ずつ停止液に移します。停止液によって現像液が汚染されるのを防ぐためには、片方の手でシートフィルムを現像液から持ち上げ、もう一方の手で停止液の中のフィルムを触ってください。

大型タンクでのシートフィルムの攪拌：シートフィルムは、少なくとも1/2インチ（1cm）離してください。同じタンクで種々のサイズのフィルム（8×10インチおよび4×5インチフィルムのような）をいっしょに現像処理する場合には、大きいシートフィルムに現像ムラやスクラッチが付かないように、8×10のアセテートシートまたはヤレフィルムをかけたハンガーで、異なったサイズのフィルムを含むハンガーを離してください。攪拌中にマルチプル フィルム ハンガーの中央フレームの回りに乱れが生じて、現像が不均一になります。ハンガーにかけた1枚または1パッチ（数枚のフィルム）のシートフィルムをタンク中で攪拌するには、次の方法に従ってください。

1. タイマーをスタートさせます。現像液の中にハンガーを1単位として下げます。タンクのふちにハンガーを2～3回軽くたたき、フィルムの表面から気泡を取り除くようにします。（気泡が付いていると、現像が妨害され、フィルム上に円形の低濃度ムラが生じます。）
2. 最初の1分間のうちの残った時間は、ハンガーを静止したままにしておきます。
3. 溶液からハンガーをすべて持ち上げて、左にほぼ90度傾けます。ハンガーを液中に沈め、再び持ち上げます。今度は、ハンガーをほぼ90度右に傾けます。これを5～7秒でできるだけ素早く静かに行ないます。
4. ハンガーを液中に浸し、間隔があいているかどうか確認します。
5. 現像時間中、この攪拌サイクルを毎分1回繰り返します。

注：各々の攪拌サイクルは、約6秒にしてください。大きいシートフィルム（例えば8×10インチ）を現像処理する場合には、溶液からフィルムをあまり素早く持ち上げて、フィルムがハンガーから外れてしまわないように注意してください。

現像時間

次頁の現像時間は、初期推奨値です。厳密な用途に対しては、テストをして最適な現像時間を決定してください。フィルムのコントラストが常に低過ぎる場合には、現像時間をわずかに（10～15%）増してください。逆にコントラストが高過ぎる場合には、現像時間をわずかに（10～15%）減らしてください。

D-76 デベロッパーを1:1に希釈して使用する場合には、使用直前に希釈し、フィルムを1回現像処理した後は廃棄します。希釈現像液を使用する前に、気泡が溶液中にないことを確認してください。空気が溶液から出て来て、気泡が生じる場合には、気泡が消えるまで溶液をそのまま放置します。希釈した溶液は再使用したり、補充したりしないでください。希釈現像液473ml（16オンス）では135-36ロールフィルム（80平方インチ:516cm²）1本、あるいは946ml（1クォート）では2本同時に現像することができます。237ml（8オンス）タンクで135-36フィルム1本、または473ml（16オンス）タンクで135-36フィルムを2本現像処理する場合には、現像時間を10%増してください。（3ページの表を参照して下さい）

ロール フィルム

コダック プロフェッショナル D-76 デベロッパー (原液)

コダック フィルム	現像時間(分)									
	小型タンク*					大型タンク†				
	18°C (65°F)	20°C (68°F)	21°C (70°F)	22°C (72°F)	24°C (75°F)	18°C (65°F)	20°C (68°F)	21°C (70°F)	22°C (72°F)	24°C (75°F)
T-MAX 100 プロフェッショナル	10 ½	9	8	7	6	11 ½	10	9	8	6 ½
プロフェッショナル T-MAX 100	7 ½	6 ½	5 ½	5	4 ¼	8 ¼	7 ¼	6 ½	5 ¾	4 ¾
T-MAX 400 プロフェッショナル & プロフェッショナル T-MAX 400	9	8	7	6 ½	5 ½	10	9	8	7 ½	6 ½
T-MAX P3200 プロフェッショナル	下表を参照してください					下表を参照してください				
ベリクローム パン	8	7	5 ½	5	4 ½	9	8	7	6	5
プラス-X パン/ PX プラス-X パン プロフェッショナル/ PXP	6 ½	5 ½	5	4 ½	3 ¾	7 ½	6 ½	6	5 ½	4 ½
プロフェッショナル プラス-X 125	6 ½	5 ½	5	4 ½	4	7 ¼	6 ¼	5 ¾	5 ¼	4 ½
トライ-X パン	9	8	7 ½	6 ½	5 ½	10	9	8	7	6
トライ-X パン プロフェッショナル	9	8	7 ½	7	6	10	9	8 ½	8	7
プロフェッショナル トライ-X 400 フィルム / 400TX	8	6 ¾	6 ¼	5 ½	4 ¾	9 ¼	7 ¾	7	6 ½	5 ½
プロフェッショナル トライ-X 320 フィルム / 320TXP	10	9	8 ¼	7 ½	6 ½	11 ½	10 ¼	9 ½	8 ¾	7 ½
ハイスピード インフラレッド	9 ½	8 ½	7 ½	7	6	10	9	8	7 ½	6 ½

* 30秒間隔で撹拌します。

† 1分間隔で撹拌します。

注: タンク現像の場合、5分未満ですと現像ムラを生じることがあります。

コダック T-MAX P3200 プロフェッショナル フィルムを
コダック プロフェッショナル D-76 デベロッパー (原液) で現像する場合

下記 露光指数で 露光	現像時間(分)				
	小型タンク*				
	20°C (68°F)	21°C (70°F)	24°C (75°F)	27°C (80°F)	29°C (85°F)
400/27°	10 ½	9 ½	7 ½	6	4 ½
800/30°	11	10	8	6 ½	5
1600/33°	11 ½	10 ½	8 ½	7	5 ½
3200/36°	15	13 ½	11	8 ½	7 ½
6400/39°	17 ½	16	12 ½	10 ½	9

* 30秒間隔で撹拌します。

注: タンク現像の場合、5分未満ですと現像ムラを生じることがあります。

コダック プロフェッショナル T-MAX P3200 フィルムを
コダック プロフェッショナル D-76 デベロッパー (原液) で現像する場合

下記 露光指数で 露光	現像時間(分)				
	小型タンク*				
	20°C (68°F)	21°C (70°F)	24°C (75°F)	27°C (80°F)	29°C (85°F)
400/27°	10 ½	9 ½	7 ½	6	5
800/30°	11 ½	10 ½	8 ½	6 ½	5 ½
1600/33°	12 ½	11 ½	9	7 ½	6
3200/36°	14	13	10 ½	8 ½	6 ½
6400/39°	15 ½	14	11 ½	9	7 ½

* 30秒間隔で撹拌します。

注: タンク現像の場合、5分未満ですと現像ムラを生じることがあります。

コダック プロフェッショナル D-76 デベロッパー (1:1)

コダック フィルム	現像時間(分)									
	小型タンク*					大型タンク†				
	18°C (65°F)	20°C (68°F)	21°C (70°F)	22°C (72°F)	24°C (75°F)	18°C (65°F)	20°C (68°F)	21°C (70°F)	22°C (72°F)	24°C (75°F)
T-MAX 100 プロフェッショナル	14 ½	12	11	10	8 ½	—	—	—	—	—
プロフェッショナル T-MAX 100	11	9 ½	8 ½	7 ½	6 ¼	—	—	—	—	—
T-MAX 400 プロフェッショナル & プロフェッショナル T-MAX 400	14 ½	12 ½	11	10	9	—	—	—	—	—
ベリクローム パン	11	9	8	7	6	12 ½	10	9	8	7
プラス-X パン/ PX プラス-X パン プロフェッショナル/ PXP	8	7	6 ½	6	5	10	9	8	7 ½	7
プロフェッショナル プラス-X 125	10	8 ½	7 ¾	7 ¼	6	11 ¼	9 ¾	8 ¾	8	6 ¾
トライ-X パン	11	10	9 ½	9	8	13	12	11	10	9
プロフェッショナル トライ-X 400 フィルム / 400TX	10 ¾	9 ¾	9	8 ½	7 ¾	12 ¼	11	10 ½	9 ¾	8 ¾
プロフェッショナル トライ-X 320 フィルム / 320TXP	14 ¼	12 ¾	11 ¾	10 ¾	9 ¼	—	—	—	—	—

* 30秒間隔で攪拌します。

† 1分間隔で攪拌します。

シート フィルム

コダック プロフェッショナル D-76 デベロッパー (原液)

コダック シート フィルム	現像時間(分)									
	トレー*					大型タンク†				
	18°C (65°F)	20°C (68°F)	21°C (70°F)	22°C (72°F)	24°C (75°F)	18°C (65°F)	20°C (68°F)	21°C (70°F)	22°C (72°F)	24°C (75°F)
T-MAX 100 プロフェッショナル	9 ½	7	6 ½	5 ½	5	11 ½	9 ½	8 ½	7 ½	7
プロフェッショナル T-MAX 100	6 ¾	5 ¾	5 ¼	4 ¾	4	8 ¼	7 ¼	6 ½	5 ¾	4 ¾
T-MAX 400 プロフェッショナル & プロフェッショナル T-MAX 400	9 ½	7	6 ½	6	5 ½	11	10	9	8	7
トライ-X パン プロフェッショナル / TXT	6	5 ½	5	5	4 ½	7 ½	7	6 ½	6	5 ½
プロフェッショナル トライ-X 320 フィルム / 320TXP	6 ¾	6	5 ½	5	4 ½	8 ½	7 ½	7	6 ¼	5 ½
プラス-X パン プロフェッショナル / PXT	7	6	5 ½	5	4 ½	9	8	7 ½	7	6
エクタパン	9	8	7	6 ½	5 ½	11	10	9	8 ½	7 ½
ハイスピード インフラレッド / HSI	11	9 ½	8 ½	7 ½	6 ½	10	9	8	7 ½	6 ½

* 連続攪拌します。

† 1分間隔で攪拌します。

小型タンクによるロールフィルムの増感現像

通常のISO感度またはEI(露光指数)値よりも高い感度で露光されたロールフィルムを現像処理する場合には、下表の現像時間を使用して下さい。標準の感度より1絞り高い感度で下記のフィルムを露光する場合には、標準時間で現像することをお薦めします。これらのフィルムは、露光不足に対する寛容度が広く、増感処理するよりも微粒子になりますのでよい結果が得られるのです。

コダック プロフェッショナル D-76 デベロッパー(原液)

コダック ロール フィルム	現 像 時 間 (分)			
	20°C (68°F)	24°C (75°F)	20°C (68°F)	24°C (75°F)
T-MAX 100 プロフェッショナル	EI 200 (標準現像)		EI 400 (2絞り増感現像)	
	9	6	11	7 1/2
プロフェッショナル T-MAX 100	6 1/2	4 1/4	8 1/4	5 1/2
T-MAX 400 プロフェッショナル & プロフェッショナル T-MAX 400	EI 800 (標準現像)		EI 1600 (2絞り増感現像)	
	8	5 1/2	10 1/2	7
トライ-X パン	8	5 1/2	13	10
プロフェッショナル トライ-X 400 フィルム / 400TX	8	4 3/4	9 1/2	6 1/2

ロータリーチューブ処理

ご使用の機器の攪拌方法に従って下さい。

コダック プロフェッショナル D-76 デベロッパー (原液)

コダック フィルム	EI	18°C (65°F)	20°C (68°F)	21°C (70°F)	22°C (72°F)	24°C (75°F)
T-MAX 100 プロフェッショナル	100/200	—	6 1/2	6	5 1/2	5
	400	—	9	8 1/2	8	7
	800	NR	NR	NR	NR	NR
プロフェッショナル T-MAX 100	100/200	7 1/2	6 1/4	5 3/4	5 1/4	4 1/4
	400	—	8 1/4	7 1/2	6 3/4	5 1/2
T-MAX 400 プロフェッショナル & プロフェッショナル T-MAX 400	400	—	6 1/2	6 1/2	6	5 1/2
	800	—	7	6 1/2	6	5 1/2
	1600	—	9	8 1/2	8	7
	3200	NR	NR	NR	NR	NR
T-MAX P3200 プロフェッショナル	400	—	8	7 1/2	7 1/4	6 1/2
	800	—	8 1/2	8	7 3/4	7
	1600	—	9	8 1/2	8	7 1/2
	3200	—	11 1/2	11	10 1/2	9 1/2
	6400	—	13 1/2	13	12	11
プロフェッショナル T-MAX P3200	400	—	7 1/2	6 1/2	5 1/2	5
	800	—	8 1/2	7 1/4	6 1/4	5 3/4
	1600	—	9 1/4	8	6 3/4	6 1/4
	3200	—	10 1/2	9	7 3/4	7
	6400	—	12	10 1/4	8 3/4	8
プラス-X パン/ PX	125	5 1/2	5	4	3 1/2	3
プラス-X パン プロフェッショナル/ PXP	125	7	6	5	4 1/2	4 1/2
プロフェッショナル プラス-X 125	125	6 1/2	5 1/2	5	4 1/2	4
	500	9	7 3/4	7	6 1/2	5 1/2
トライ-X パン	400/800	7 1/2	7	6	5	4
	1600	—	—	9	8	7
	3200	—	—	11	10	9 1/2
トライ-X パン プロフェッショナル	320	—	7 1/2	7	6 1/2	5 1/2
プロフェッショナル トライ-X 400 フィルム / 400TX	400/800	8	6 3/4	6 1/4	5 1/2	4 3/4
	1600	11 1/4	9 1/2	8 3/4	7 3/4	6 1/2
	3200	12 3/4	11	9 3/4	9	7 1/2
プロフェッショナル トライ-X 320 フィルム / 320TXP—ロール	320/640	10	9	8 1/4	7 1/2	6 1/2
プロフェッショナル トライ-X 320 フィルム / 320TXP—シート	320/640	6	5 1/4	4 3/4	4 1/2	4

NR=おすすめしません。

保存期間と処理能力

コダック プロフェッショナル D-76 デベロッパーおよびD-76R リプレニッシャーの保存特性に対するガイドとしては、下表を使用してください。また下表には、補充をしない場合の現像液の処理能力も示されています。

貯蔵液は密栓をしたビンで保存してください。溶液が充滿していますと、保存期間が長くなります。充滿していませんと、溶液はいくらか酸化されやすくなります。

溶 液	保 存 期 間				1ガロン(1リットル)当りの能力	
	密栓したビン中の貯蔵液		使用液		8×10インチシート(トレイ)	135-36または120ロール(タンク)
	充滿している	半分しか入っていない	トレイ	タンク*		
D-76 デベロッパー	6ヶ月	2ヶ月	24時間	1ヶ月	16 (4) [†]	16 (4) ^{†‡}
D-76 デベロッパー(1:1)	NA	NA	24時間	NA	8 (2)	8 (2) [†]
D-76R デベロッパー(1:1)	6ヶ月	2ヶ月	NA	NA	NA	NA

* 浮きブタ付きの1ガロン(3.8L)タンク

† 現像時間を補正します。1ガロン(3.8L)当り8×10インチシート各4枚またはロール4本現像処理した後は、15%ずつ現像時間を延長してください。

‡ 各パッチ現像した後に、補充液を加えることによって、1ガロン(3.8L)当り120枚まで現像液の処理能力を増すことができます。補充液を使用する場合には、現像時間を延長しないでください。下の"補充"の項目を参照してください。

NA=適用できません。

D-76 デベロッパーを1:1に希釈して使用する場合には、使用直前に希釈し、フィルム1パッチ現像処理した後は廃棄してください。この溶液は再使用したり、補充したりしないでください。

473ml(16オンス)タンクで135-36フィルムを2本現像処理する場合には、1:1に希釈したD-76 デベロッパーの処理能力を高めたい場合には、推奨時間よりも現像時間を10%増してください。

補充

D-76 デベロッパー(原液)をコダック プロフェッショナル D-76R リプレニッシャーで補充しますと、現像時間を延長しなくても現像液の処理能力が増加し、常に一定の処理結果を得ることができます。

もし、コダック プロフェッショナル T-MAX フィルムが混在、またはコダック プロフェッショナル T-MAX フィルムのみを現像処理する場合には、次のように改変した溶解方法と補充率を用いてください。T-MAX フィルムは、現像液に対してよりセンシティブなため、リプレニッシャーに反応して感度の多少の低下やコントラストの増加が起こりますが、改変した補充液を使用することでその現象をコントロールすることができます。

T-MAX フィルム以外のフィルムだけを処理する場合には、通常のリプレニッシャーの補充方法を使用してください。

改変した補充液を使用する場合

補充液を改変する場合には、パッケージに書かれている指示に従って、D-76 デベロッパーおよびD-76R リプレニッシャーを溶解してください。次いで、5部のD-76 デベロッパーと1部のD-76R リプレニッシャーを混合し、この溶液が完全に溶解するまで攪拌します。溶解すべき改変補充液の量を決めるには、3~4週間分の量を見積もってください。この量の補充液を溶解するためには、包装された現像液と補充液を選んでください。例えば、45.4L(12ガロン)の改変された補充液が必要であると決定したら、1個の38L(10ガロン)用D-76 デベロッパーと2個の3.8L(1ガロン)用D-76R リプレニッシャーを用意し、次いでこれらの溶液を組み合わせます。常に一定の結果を得るには、4週間以上この改変された補充液を貯蔵しないでください。低利用率(タンク溶液をターンオーバーするのに1ヶ月以上かかる場合)

では、現像液を1ヶ月後に廃棄してください。改変された初期設定補充率は、135-36または120フィルム1本、あるいは8×10フィルム1枚(またはそれと同等)現像処理することに70ml(2 1/2液量オンス)です。コダック ブラック アンド ホワイト フィルム プロセス コントロール ストリップを使って現像液の活性度を監視し、フィルムのコントラストを必要とされる範囲に保つために、必要に応じてこの初期設定率を調整します。3.8L(1ガロン)当たり9600平方インチ(2.4m²)のフィルムを現像処理した後は現像液を廃棄します。各種フィルムサイズに対するロールまたはシートフィルムの処理能力が次頁の表に挙げられています。

通常の補充液を使用する場合

135-36または120フィルム各1本、あるいは8×10インチフィルム1枚(またはそれと同等)を現像処理した場合には、補充液を22.2~29.6ml(3/4~1オンス)加えます。(この補充率は、普通、薬品の消耗と同様、現像液の通常の持ち出し量を補正するのに十分です。しかしながら、溶液の損失量が補充では賄いきれないぐらい多い場合には、新鮮な現像使用液を加えて、この損失量を埋め合わせてください。)補充液を加えたら、そのつど、完全に溶液を攪拌するか、または循環します。コダック ブラック アンド ホワイト フィルム プロセス コントロール ストリップを使って現像液の活性度を監視し、フィルムのコントラストを必要とされる範囲に保つために、必要に応じてこの初期設定率を調整します。

3.8L (1ガロン) 当たり9600平方インチ (2.4m²) のフィルムを現像処理した後は現像液を廃棄します。各種フィルムサイズに対するロールまたはシートフィルムの処理能力が下表に挙げられています。

補充したD-76 デベロッパの処理能力

フィルム サイズ	現像液1ガロン (3.8L) 当りのロール本数 またはシート枚数 (補充する場合)
120	120
220	60
135-24	160
135-36	120
8x10インチ シート	120
4x5インチ シート	480

販売サイズ

コダック D-76 デベロッパ
1リットル用 CAT No. 827 5497
1ガロン (3.8L) 用 146 4817
10ガロン (38L) 用 146 4825

コダック D-76R リプレニッシャー
1ガロン (3.8L) 用 CAT No. 146 4833

その他の詳細な情報

コダック社では、皆様のお役に立てて頂きたく、コダック製品、装置および材料に関する出版物を多数用意しております。この出版物に記載された資料は、コダック プロフェッショナル製品を販売しているOディールー加盟会社や写真材料販売店からお求めになれます。

- F-7 KODAK VERICHROME Pan Film
(和文:TSC0488 コダック ベリクローム パン フィルム)
- F-8 KODAK PLUS-X Pan and KODAK PLUS-X Pan Professional Films
(和文:TSC0489/0490 コダック プラス-X パン / コダック プラス-X パン プロフェッショナル フィルム)
- F-9 KODAK TRI-X Pan and KODAK TRI-X Pan Professional Films
(和文:TSC0530 コダック トライ-X パン / コダック トライ-X パン プロフェッショナル フィルム)
- F-10 KODAK EKTAPAN Film
(和文:TSC0487 コダック エクタパン フィルム)
- F-13 KODAK High Speed Infrared Film
(和文:TSC0463 コダック ハイスピード インフラレッド フィルム)
- F-32 KODAK T-MAX Professional Films
(和文:TSC0407 コダック T-MAX プロフェッショナル フィルム)
- F-4016 KODAK PROFESSIONAL T-MAX Films
(和文:TSC0585 コダック プロフェッショナル T-MAX フィルム)
- F-4017 KODAK PROFESSIONAL TRI-X 320 and 400 Films
(和文:TSC0593 コダック プロフェッショナル TRI-X 320 / 400 フィルム)
- F-4018 KODAK PROFESSIONAL PLUS-X 125 Films
(和文:TSC0586 コダック プロフェッショナル プラス-X 125 フィルム)

お問い合わせについては、下記の各地コダック株式会社プロフェッショナル事業部、あるいはコダック社インターネットページ(英文)をご利用ください。
<http://www.kodak.com/go/professional>

コダック株式会社 プロフェッショナル事業部

お客様相談センター Tel.03-5644-5040
東京 Tel.03-5644-5020 / 大阪 Tel.06-6120-6650 / 札幌 Tel.011-738-5220
仙台 Tel.022-791-7445 / 名古屋 Tel.052-953-6940 / 福岡 Tel.092-413-8430
ホームページアドレス <http://www.kodak.co.jp/go/professional>



Kodak, Kodak Professional ,D-76, D-76R, T-Max, Verichrome, Plus-X,
Tri-X および Ektapan の各用語はコダック社の登録商標です。